京都市域地域医療構想調整会議の議事概要

１　開催日程　　令和８年 10 月６日（火）16 時 00 分～17 時 00 分

２　開催方法　　web 会議

３　出　席　者　　出席者名簿を参照

４　議事の概要

【協議事項（公開案件）】

（１）新たな地域医療構想について

事務局から資料１に基づき説明。

〈主な意見〉

▶　京都市域は医療が充実しているが偏在しているところもある。往診等をしていく際に立地条件が問題となるため、単純な距離だけではなく起伏等も考慮した体制整備が必要と考えている。

▶　特定機能病院・基幹病院が集中する京都・乙訓では薬剤師偏在指標上、薬剤師が一見充足しているように見えることもあるが、薬剤師の確保についてもしっかりと議論していただきたい。

▶　生きた人が対象のデータを示していただいたが、上京区の住民の看取り場所のデータはあるか。

⇒　病院や自宅等死亡の場所に関するデータは人口動態統計でまとめられている。

（２）外来医師過多区域について

事務局から資料２に基づき説明。

〈主な意見〉

▶　京都・乙訓医療圏の中で、乙訓地域は外来医師過多区域になり得るか。また、京都市内でも京北町等は医師少数区域になると思われるが、どのように扱うのか。

⇒　現在アンケートを実施中であり、外来医療の協議の場でも協議予定であるが、乙訓地域は京都市に比べると医師数は少ないが京都市とのアクセスは良好であり、全体では外来医師は多い地域と言えると考えている。また、乙訓地域や京北町等の地域にも不足する機能はあると考えており、外来医師過多区域に指定して地域に不足する機能の充実・確保にご協力をお願いしてはどうかと考えている。

【協議事項（非公開案件）】

（３）病床数適正化緊急支援事業について

申請状況及び地域医療への影響の確認

【地域医療構想アドバイザーのコメント】

▶ 一般社団法人京都府医師会　松井会長

・　構想区域の見直しについては、京都・乙訓構想区域を分けるのか等が議論の中心と思う。これまで一つの構想区域として医療の提供を行ってきた中で、患者は自由に受けたい病院に移動してるため、国が言っている流入・流出の問題は大きな問題ではないと考えている。人口の変化等の状況を見ながら柔軟に対応することが大事だと考えている。

・　外来医師過多区域は、開業を制限するという形にしてはいけないと考えている。一緒に地域医療に貢献していく先生を求めていくという意味では全域を指定していただいてはどうかと考えている。

▶ 京都大学大学院　今中教授

・　構想区域については、まとめすぎると地域の状況が見えなくなると考える。

・　機能ごとに区域が変わってくると考えるため、例えば、放射線治療を受けるための区域や外来化学療法、心臓、脳、がんでも変わってくると考える。

・　地域医療介護総合確保基金をどのように活用していくかが重要。国の更なる支援も必要と考える。

・　ダウンサイズや機能転換がますます重要になってくる。スムーズなダウンサイズを行うための情報交換や参考情報の提供があればよいと考えている。

▶ 京都府立医科大学　吉井教授

・　構想区域の検討をまず進めていくという流れで、医療機能ごとにデータを確認することが大事と考える。

・　入院医療だけでなく、外来、在宅、介護の連携、人材確保等の観点も対象に進めていく必要がある。